

年月日

22

07 29

ページ

05

N.O.

奥野製薬工業

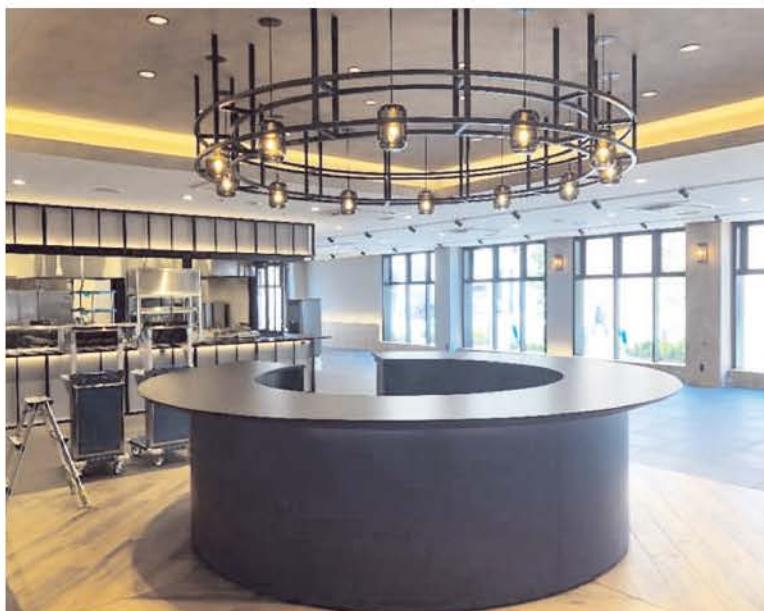
市中央区、奥野和義社長は、主力の表面処理部門と無機材料、食用品の3部門で事業展開している。国連の持続可能な開発目標(SDGs)に取り組むきっかけは重要顧客であるメリッキ加工の有力メーカーがいち早く取り組んでいることを知ったこと。これに刺激を受けて2020年9月に国内唯一の「関西SDG」(プラットフォーム)に参加した。「顧客の動きを知らないから立ち遅れていただろう」(西城信吾総合技術研究所企画開発部長)と振り返る。

奥野製薬工業(大阪市中央区、奥野和義社長)は、主力の表面処理部門と無機材料、食用品の3部門で事業展開している。国連の持続可能な開発目標(SDGs)に取り組むきっかけは重要顧客であるメリッキ加工の有力メーカーがいち早く取り組んでいることを知ったこと。これに刺激を受けて2020年9月に国内唯一の「関西SDG」(プラットフォーム)に参加した。「顧客の動きを知らないから立ち遅れていただろう」(西城信吾総合技術研究所企画開発部長)と振り返る。

顧客からの影響

▽ 157 △

日本を変える 17Goals



●カフェエテリア
風の社員食堂は
地域への開放も
検討中
新工場はSDGs
を強く意識



2排出量の算
出や削減を
「見える化」
するツールを
新たに導入す
る計画も進め
ている。

設備投資、SDGsを意識

つ。

表面処理製品は生産工程で大量の水を消費する責任につかう責任」たため、高圧洗浄機を導入して排水を85%削減する。さらに「つくに効果は大きい。また、基礎部分には再生資源を実現するため、長時間使える製品を生産し、廃棄を抑制。排水から重金属を回収しリサイクルを促進する。

CO₂削減に向けた取り組みの一環で新工場の鉄骨を高炉材ではなく高性能の電炉材を採用した。全体で1600tの鋼材を使用するだけ

排出「見える化」

SDGsを推進しCO₂削減の取り組みを強化しているが、「働きがないにも配慮している。ロボットを導入して労働環境を改善している。ロボットを導められるのは個々の製品がどれほどCO₂排出抑制に貢献しているかを

知ること」(同)。

そこでCO₂排出量の算出や削減を「見える化」するツールを新たに導入する計画も進めている。

しMES(製造実行システム)を導入して自動化を進める。このほど完成した品質保証セ

ンターの1階部分の社員食堂はカフェ風の作りで、社員がくつるげるだけでなく、将来は地域に開放することも考